

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.31

2009.MAR.

発行日 / 2009年3月13日 (年4回)

NPO法人 長野都市経営研究所

発行 / NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp



2009(平成21)年を迎えて

NPO法人 長野都市経営研究所
理事長 市川浩一郎

平成21年の新春を迎え、皆様方のご健勝とご繁栄をお慶び申し上げます。会員の皆様には、日頃よりNUPRIの諸活動に格別なるご支援とご厚情を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年秋季の米国金融危機に端を発する世界同時不況により、経済構造が急激に変化しつつある中、我々を取り巻く環境もきわめて厳しい状況にあります。そうした中で新たな年を迎えることとなりましたが、今、大切なのは、一人ひとり、一社一社、一国一国がそれぞれの立場で現状を冷静に検証し、原点に立ち戻って考え直すことではないかと考えます。

NUPRIでも新年度に向け、設立以来の理念である「長野オリンピック後の街の活性化のための研究と実践」を基本に、昨年度より推進している「スポーツによる街の活性化」について、より充実した事業展開をすべく、計画の再検討をしていく所存です。

また、ご好評をいただいている「わいがやサロン」も、会員に加え非会員の皆様との交流の場として、さらなる拡充を図ってまいります。

今年己丑(つちのと・うし)のとし。「己(キ)」は「紀」と同じく「己(おのれ)をただす」ことを本義とし、「物事をよく整理して筋道をただす」ということでもあります。また「丑(チュウ)」は「紐」と同じく「結ぶ、束ねる、統率する」意味があるとされます。すなわち今年には、何事に対しても正しき道筋を通して物事の乱れを収め整えてこそ大いに発展が期待できるといわれております。

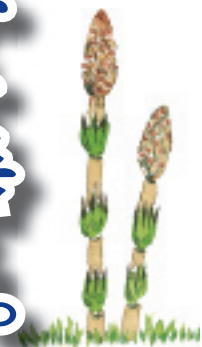
これを念頭に活動し、NUPRIの一層の発展を期すとともに、会員の皆様にとってよりよい年となりますことを心より祈念申し上げます。

2009年
新春座談会



街に元気を！

2009年NUPRIの取り組みを語る。



世界的な大不況の中で迎えた2009年。とかく後ろ向きになりがちな世相ですが、「街を元気にする」使命を担ったNUPRIは、各種団体と利害をひとつにしない自由な立場を生かし、今年も独自の取り組みを積極的に進めてまいります。

本年は4〜5月に善光寺御開帳、10月に長野市長選を控えています。また5年後には新幹線が金沢まで延伸するという状況の中で、今、NUPRIがすべきことは何かが問われる年になると考えられます。年頭にあたり役員各位が集い、研究部会・特別委員会の今年の活動について自由闊達な意見交換を行いました。会員の皆様の取り組みならびに所属部会の具体的な指針や施策を検討する材料としていただき、「ご意見、ご提言などをお寄せいただければ幸いです。」

(平成21年1月28日 NUPRI事務所にて開催 文中敬称略)

NUPRI自身が明るさを失わず
街に元気を

岩野 (司会以下司会と表記) 新年が明け、まもなく2月を迎えようとしております。本日は2年ぶりに新春座談会を開催のはこびとなりました。昨年秋から続いている想定外の景気悪化の中、誰もが厳しさを実感しておられることと思いますが、こんな時こそ地域を元気づけるのが我々NUPRIの役割と考えています。その一環としまして、本座では諸々の制約や垣根を越えた自由な意見交換を行い、年頭の景気つけとし、今年への活動に弾みをつけてまいりたいと思っております。まず理事長、新年のごあいさつをお願いいたします。

市川 景気低迷、政局の混乱など、不安定な要素が渦

巻く年明けとなり、会員の皆さんそれぞれに企業トップのお立場から、この時代をどう生き抜くかを改めて熟考しておられると思います。私が好きな言葉のひとつに、現在のようないかなる構造変革の時代にびつたりという言葉があります。ですので、ご紹介します。ダーウィンが『進化論』



市川 浩一郎
理事長

市民が主役となって
スポーツを楽しみ、支える街へ

司会

で述べている「勝ち抜き、勝ち残った生物は、最も強い生物ではなく、自然環境の変化に最も対応できた生物である」という一節です。社会構造、経済環境が予想を超えるめまぐるしさで変化を続けている今、企業にも同じことがいえるのではないのでしょうか。何をやっても厳しいという現実の中では、強さをめざすのではなく、経済変化にいかに対応するかを考えることが生き残りの鍵となるでしょう。

また、こんな時代だからこそ、企業トップの皆さんが「明るさ」を失わないことが大事と考えます。街を元気づけるNUPRIとしても、まず自分たちが明るく元気でなくてはなりません。そういった意味でも「スポーツ」に視点をあてた街づくりの試みは、非常に的を射ていると考えます。長野パルセイロの今年の活躍を精一杯応援し、地域の活気につなげていきましょう。本年も皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

では、ここからは各研究部会長・特別委員長それぞれに、今年の活動への抱負を語っていただき、自由に意見交換する場としましょう。副理事長、専務理事も遠慮なく忌憚のないご意見をお願い

鷺澤

いたします。今、市川理事長からスポーツの話が出てきましたので、スポーツ・街づくり研究部会の活動から、まずお話しいただきます。

スポーツは市民が一体感をもって盛り上がり、地域の活気をはぐくんできていく素晴らしい要素を秘めています。その実現のためには、市民が必要とし、支えたいようなチームの存在が不可欠です。しかし、こうした経済状況のもとでは、スポンサーだけに頼る旧来のスタイルではチームの存続そのものが危ぶまれ、スポーツが地域に根ざしていくのはなかなか困難です。長野パルセイロは、今、まさに市民スポーツとしてのあり方を問われているといえるでしょう。

昨年はもう一步のところ昇格を逃して残念な結果となりましたが、何度もスタジアムへ足を運んでくださった皆さんは、試合の興奮とともに、地元チームを応援する充実感や楽しさを実感されたはずだと思います。今年はずっと多くの皆さんにお越しいただけるよう、努力していくつもりです。市民にとって、サッカーなどのゲーム観戦ほど安上がりで健康的なエンターテインメントはありません。休日の半日を家族みんなでスタジアムで過ごし、楽しめるのですから。個人サポーターが1000人、2000人と増え、それをスポンサー企業が支えるといった、理想的なクラブチームの



鷺澤 幸一
スポーツ・街づくり研究部会 部会長

形を作っていくためには、不景気の今は、ある意味チャンスの時と考えます。ぜひ多くの皆さんにスタジアムへ来てほしいですね。

今年の長野パルセイロはバドウ監督を中心に昨年より力のあるチーム編成が実現しており、市民の応援に力強く応えてくれると期待されます。最終的に松本山雅との一騎打ちとなることが予想されますが、必勝の意気込みでシーズンを待っています。この機を存分に生かせるよう、NUPRIとしてもできる限りの支援をしたいと考えています。

藤牧

団塊世代の市民は、いまだに「サッカーより野球」と思っているのではないのでしょうか。実感としてどうですか。

鷺澤

スタジアムには意外にも熟年カップルの姿が多いんですよ。本音を言うと、最もターゲットにしたいのは子どもたちなのですが、日曜日の日中は、サッカー少年たちも試合で出かけているんですね（苦笑）。そのため、平日に選手が小中学校へ派遣コーチとして出向くなど、交流の機会を設けています。

夏目

子どもたちはもちろんですが、中高年を巻き込むイベントを打ち、三世代で楽しむような方向にしたらどうだろう。市民との距離を近づけるイベントを増やしていく施策が大事でしょうね。

竹内

中高年を巻き込むには、出資させる、参加させるといった工夫により、「参画したい」という思いを持たせることも有効だと思いますよ。それが熱烈な応援につながるんです。りんごの木の一ナー制度をやってみて実感したことですね。

「農業」「環境」をキーワードに 新たな産業創出を模索

司会

ちょうど話が移ったところで、新産業創出研究

竹内

部会の活動について伺いましょう。

何をやってもダメといわれがちな経済環境ですが、こと「食」に関しては、人が生きる上で必要不可欠なものとして常にビジネスチャンスを含んでいると感じています。特に「農業」「環境」をキーワードとすることで、新たな事業の創出につながれるという手応えを感じますね。

現在の景気の悪さは、都市部で暮らす人々が中山間地を見直すきっかけを生み、農業への回帰を促しています。少なくとも多くの人が、観光での農業体験や、りんごの木オーナー制度のように自ら出資して自分の手で収穫することに、今まで以上に大きな意義を感じています。こうした状況を事業化し、収益の上がるしくみをしっかりと構築できるのではないかと思っています。市とタイアップして大きな農園プロジェクトを展開することも可能ですね。すでにNPO法人を組織し、無農薬栽培に取り組んで、観光農園事業として全国展開を果たしている部員もいます。その過程がモデルケースになるとみえています。



竹内 伊吉
新産業創出研究部会 部会長

市川

長野の気候や地形を生かし、山間地で薬草を栽培する事業が始まっていると聞きます。そんな方向性も、ひとつのヒントにならないでしょうか。室賀さんも西山地域で唐辛子の栽培を進めていますね。

夏目

型にはまった従来の農業経営は厳しいご時世だと思いますが、無農薬・低農薬の作物とか、今話に出た葉草とか特殊な作物のような他にはない付加価値を育て、着実に収益が上がるしくみを確立できれば、農業の振興にも貢献できますね。限界集落の荒れた休耕田の活用にもつながるし、中山間地の過疎化の歯止めになるかもしれません。

藤牧

確か菅平には筑波大学の葉草栽培試験地や、県の葉草園がありますね。ノウハウの提供を受けて、何か新しい取り組みができるかもしれない。地域性をかんがみても、農業に光を当てていく時期に来ているのは確かでしょうね。

竹内

同時に、それを事業として定着させる新しい流通システムを模索する必要がありますね。

司会

折しも今年度の「わいがやサロン」のテーマは「農業」です。新産業創出研究部会と連携を図りながら、興味深い取り組みができそうですね。

新幹線対応：「長野」にこだわる 独自の取り組みが必至

司会

2014年の新幹線延伸が迫っていますが、その点に関してはどうでしょうか。

夏目

Strategy2014研究部会では、昨年、



夏目 潔

Strategy 2014研究部会 部会長

金沢へ行って勉強してきたのですが、金沢と長野の人々の意識差に愕然としたというのが、正直なところですね。金沢は美術館ひとつとっても、やり方がうまい。魅力を自分たちで育て、発信する力に長けていますね。長野では「金沢と連携して、ともに発展を」との声も大きいのですが、諸刃の刀だと我々は見えています。もっと「長野」にこだわり、文化的、経済的集積を高めておくことが肝要だと思いますね。駅機能の強化はもちろん重要な課題です。それと併せ、小松、富山の空港から長野へ直接人を呼び込むような輸送ルートを確立する必要もあると感じます。長野に住む人々がもっと切実に、長野のアイデンティティを考えなくてはいけないと思いますね。

竹内

大いに賛成です。とにかく長野で降りてもらおう工夫をすることですね。受け入れ体制として、味わい（食事）体験宿泊など、長時間過ごしたくなる魅力的な要素を確立しておかないと。

夏目

そうですね。善光寺には、確かに多くの人がある。でも、多くの観光ポイントが集積している訳ではないから滞留せずに、すぐ他へ移ってしまわうんですね。周囲の魅力も限られています。歩き回って、食べたり、見たり、体験したりすることを楽しめる要素が絶対必要です。思いつきとはいえ、先ほど出た「葉草」は、いいヒントかもしれないですね。周辺部に広大な葉草園、市街地には生薬とか漢方とかの大きな展示施設：なんてね。善光寺ともミスマッチではないですね。

室賀

おもしろいと思いますが、唐からしを扱っている立場から言うと、「薬品」か「食品」か、どちらかに徹することが大事だと思いますよ。「薬品」にすると法や規制に縛られますから、ハードルは高くなります。しかし、もし実現すれば際立った個性になりますね。一方「食品」に徹し、地域の個性としてウリにするのも手だと思います。最も



室賀 豊

平成21年善光寺御開帳研究部会 部会長

夏目

避けなくてはいけないのは、その中間ですね。法的にもイメージ的にも「グレイゾーン」となりまから。地域全体のイメージが、怪しいものになりかねない。当社でも非常に気を遣っている点なんです。

なるほど。いずれにしても、長野独自の魅力ある「物語」を構成することが大事といえそうですね。ちなみに、京都はタクシーも町人も、なんとなく不親切な印象なのに、それでも全国、いや世界から人が押しかける。歴史に彩られた京都ならではのストーリーが魅力だからでしょう。

金沢がライバル的な視点で注視しているのは、軽井沢なんです。長野県のトップブランドであり、全国的なブランドだからですね。近年、渋滞や店舗の顔ぶれの変化、スーパー撤退などで、旧軽井沢のブランドイメージが下降し、塩沢湖や中軽井沢が浮上しているといった変動はありますが、やはり自然あり、スポーツあり、おいしい食べ物あり、アートや文化ありで、しかもそれらが有機的につながっているのは、魅力的でしょうね。

市川

長野市の場合、ポイントはあっても、それがつなげていませんね。街としての力や魅力になっ

鷺澤

海外の人にアプローチするならば、海外に向けたメディアを活用して、魅力を発信する必要も大き



清水 光朗
中心市街地活性化特別委員会 委員長

夏目 いでしようね。
新幹線延伸は、J R、国、複数の自治体に関わり、在来線なども絡んでくる、きわめてナーバスな問題をはらんでいます。商工会議所でもテーマを設定して研究を進めているようですが、NUPRIとしては、どこにも属さないフレキシブルな立場と視点を生かし、長いスパンで地域の発展につながるような施策を検討したいと考えています。

「歩きたくなる街」をどう構築するか

司会 新幹線延伸は中心市街地にも大きな影響を与えると考えられますね。

清水 そうです。にも関わらず、中心市街地の人々の危機感が薄いというのが現状です。視野を広くして、勉強しなくてはいけないと感じています。

中心市街地活性化特別委員会としましては、既存の要素だけで中心市街地の発展を図るのには、もはや限界があると見ています。広範な西山地域との連携が、現状を打開するひとつの鍵になると考え、検討を進めているところですが、今までの皆さんのお話の中にも、取り組みへのヒントが散見できるように思いました。

市川

市が考えている活性化施策のひとつに「歩きたくなる街」というのがありますよね。基本的にめざすものが同じだとすれば、行政とのタイアップも視野に入れて、検討してみてもどうでしょうか。市でもさまざまな施策の再構築に入っているようですね。昨年まで、活性化を目的とするイベントに積極的でしたが、少しギアチェンジを余儀なくされている感じですね。実際にイベントを多数開催し、街に人が出てにぎわいは創出できた。ところが、ほとんどの人々がイベントを楽しむだけで、結果的に消費には結びついていないといった課題に直面しているんですね。

夏目

歩かせるための誘導装置がないというのも、問題なのではないでしょうか。ウォーキングマップとか、休憩して楽しめる施設とか。さきほど理事長がおっしゃった「ポイントがつかっていない」というのにも通じますね。

司会

その一方で、多くの商店が日曜・祝日に休んでいますよね。イベント中でもシャッターを下ろしている。これではお客様がお金を落としようがないし、活性化に結びつきはつきやうがない。悪循環になっているのではないかと思います。

竹内

清水

当社も中央通り沿いに店舗を出していますが、そこが痛いところですね。現実問題として、日曜・祝日に開店していても、売り上げが平日をガクンと下回るので。休みたくなる店主の気持ちもわからないではありません。おっしゃる通り悪循環が起きているのです。しかし、地域に活気を取り戻し、歩くのが楽しい街にするためには、平日と日曜・祝日の品揃えを変えてみるとか、営業形態に変化をつけるとか、商店主の努力も大いに必要なのではないでしょうか。

司会

その努力や意欲を持ってない店主は、中心市街地には出店する資格がない……やや極論ではありますが、地域を元気にするには、そのくらいの荒

藤牧

療治が必要な時期にきているのかもしれない。今年、老舗をはじめ既存店の「やる気」を測る施策を考えてもいいかもしれませんね。
やる気を見せている店舗、成功している店舗、モデルとなるような取り組みや成功の秘訣などをNUPRIとして取材し、悩んでいる商店街に向けて発信し、地域の皆さんのやる気を促すという施策もあるように思います。



藤牧 雄一郎
専務理事

「観光客対応」には満足しないお客様

司会

さて、4月には善光寺御開帳が行われます。善光寺御開帳研究部会長の室賀さんは、ご自身の店舗も善光寺のお膝元ですね。

室賀

そのため、実を言うと、現段階では自分の店舗の準備で頭が一杯なのです。もう数ヶ月後に迫っているわけですが、今回は経済的に元気がない状況での御開帳ということもあり、地元長野市の皆さんの理解や盛り上がりがあるとなく低いという感触を持っています。県外や海外からのお客様を受け入れる心構えが、そろそろ必要なのではない

市村

7年に一度ですからね、地域として気持ちをおひきとして受け入れ体制に気合いを入れたところですね。長野駅のメインコンコースに大きな



市村 次夫
副理事長

のほりを立てて、駅に降り立った時から御開帳の雰囲気を感じ上がっているとか、そんな雰囲気作りをしてはどうかと思えます。

竹内

「エコール・ド・まつしろ」のような、共通ののれんを作って、盛り上がりを図りたいと考えているのですが、実現の可能性はどうですか。

清水

古い商店は、昔からの軒覆いを持っているんですよ。御開帳ではそれを使うのが伝統なので、新しいものには、やや抵抗感がありますね。

竹内

なるほど。しかし、地域として一体感のある盛り上がりは大事だと思いますよ。思い切った取り組みをしないと、また「善光寺だけがよかった」という結果になってしまふ…。

室賀

数百万人を迎え入れる側として最も問われるのは、なんといっても接客の姿勢でしょうね。個々の店舗にしても、人にしても、地域全体の体制にしても、接客姿勢に対する人々のまなざしは厳しくなっています。昔のようないわゆる「観光客対応」では、現代のお客様はご満足されません。世代交代が進んだ商店では、店主も店員もそのあたりについて身をもって感じているのですが、中にはそうした意識をもっていない店舗もあり、苦しいところですよ。実際に御開帳が始まってしまつと、どの店も外へ目を向ける余裕などなくなってしまうので、今の段階での連携が大事だと思つては

います。

NUPRIとしては御開帳期間に落語や講話などのイベントを予定しています。長野の魅力、善光寺の楽しみ方などを、地元の人々にもっと深く知っていただくことが、地域活性化につながるという発想です。現在は、その企画を詰めている最中です。

司会

3月のNUPRI全体懇談会は御開帳をテーマにする予定です。一緒に御開帳を盛り上げるためにも、皆さんご参加ください。

市川

数々の興味深いご意見、ご提案をありがとうございました。厳しさの中でスタートした2009年ですが、皆さんの前向きなご意見に力を得た思いです。本年も引き続きご協力、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

司会

皆さん、本日は長時間にわたりどうもありがとうございました。



岩野 彰
事務局長 (司会)

出席者	
市川 浩一郎	理事長
市村 次夫	副理事長
竹内 伊吉	新産業創出研究部会 部会長
鷲澤 幸一	スポーツ・街づくり研究部会 部会長
夏目 潔	Strategy 2014 研究部会 部会長
室賀 豊	平成21年善光寺御開帳研究部会 部会長
清水 光朗	中心市街地活性化特別委員会 委員長
藤牧 雄一郎	専務理事
岩野 彰	事務局長 (司会)

専務理事就任ご挨拶



藤牧 雄一郎

先般、前任の小林清吾さんの後を受けまして、10月よりお世話になっております。

今まで専ら企業の金融、再生の事に携わってまいりましたので、しばらく慣れるまでご迷惑をお掛けすることと思いますが、どうか宜しくお願い致します。

NUPRIは設立時、長野冬季オリンピックの成功に向けた原動力となり多大な成果を収め、その後NPOへと変身、長野オリンピック後の長野市周辺のあるべき姿を研究・提言・実践を積み重ね、そして現在は広域化する地元ニーズに応えるべく新しい課題に挑戦する組織として進化し、成長してきていると思えます。

私は、こうした伝統を踏まえて立案された活動方針のもと、会員の皆様のご協力を賜わりながら、自らも街づくりを目指す役割を微力ではありますが全うしたいと考えております。今後とも、皆様のご支援ご協力をお願いしてご挨拶と致します。